



一物と謹啓の時二書
 和而親居之並語情
 可及下信々四佐之別之
 既其孝不主家者此之倫
 以了情・縁故尸之互名達
 四京耶市会縁之計重
 の通産即ハの多あり
 甚ハと云ふ迄し其めたるは
 追來の快心了しと出まじい
 也七年市一を名解らるが
 是の如縁の由は深川善忠中
 又十長男(時らま)上京附か
 用向の文十式様旋極の件は
 海軍者より呼出を交りたる



道に資金欠乏と感ずる時
斯く申すは然に其時ニ所り
世々の金取益面し取らるる
苦痛を感ずべくその母に
早く工女取立との事ニ思ふ
初より申す可はるる
細の事情而種取はらふ
しく申指せぬ程なり
歎

吾は道に資金の拵一本申指し
海山の致し高しと云ふ
染まらぬ
心一程謹具

五月十七日

武富時敏

大隈老伯閣下

侍者